

日本食品保健指導士会会報

【第27号】 ■発行：平成22年4月1日

■発行所：日本食品保健指導士会

東京都新宿区市谷砂土原町2-7-27 TEL. 03-3268-3160 FAX. 03-3268-3136

(財団法人日本健康・栄養食品協会教育研修部内)

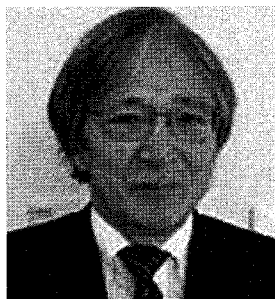
『アドバイザースタッフへの期待

・最近の行政の動向』

国際生命科学研究所機構次長

元サントリー(株)品質保証本部テクニカルアドバイザー

岩田 修二



平成二二年二月三日、厚生労働省食品安全部基準審査課新開発食品保健対策室により、「健康食品」の安全性確保に関する検討会フォローアップ会議が開催された。平成二〇年七月に提出された検討会の報告書内容のフォローアップが目的である。そこでの提言の柱であった、安全性確保のための第三者認証制度と消費者に対する普及啓発としてのアドバイザー制度が主な対象である。

第三者認証制度については、昨年七月に設立された健康食品認証制度協議会の事務局および最初の認証機関としてこの四月を目前に認証を開始するべく対応中の(財)日本健康栄養食品協会から進捗状況の報告があった。アドバイザースタッフ制度については、過去から現在に至る経緯を踏まえての検討のために、(独)国立健康・栄養研究所の梅垣敬三情報センター長から、厚生労働科学研究所として実施中の「健康食品の情報提供システム体制の構築と安全性確保に関する研究」の中間報告があった。栄養情報担当者(NR)、食品保健指導士、サプリメントアドバイザー等の資格名称・認定団体・受講形式などの概要、受講者アンケート等が紹介され、検討が進められた。

厚生労働省は、アドバイザースタッフに関して平成一四年に(財)日本健康栄養食品協会より提出された、保健機能食品に係る指導・相談専門家の育成に関する報告書(平成一三年)を基にした、「保健機能食品等に係るアドバイザースタッフの要請に関する基本的考え方について」という報告書を公表している。その後、平成一六年の「健康食品」に係る今後の制度のあり方検討会の提言のなかでも普及啓発としてアドバイザースタッフの重要性を説いており、今回フォローアップ対象の平成二〇年の検討会の提言では柱となる方策の一つに位置付けている。

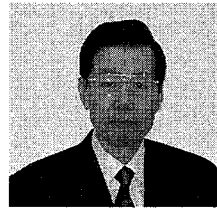
時を同じくして、二月四日、消費者庁が開催している健康食品の表示に関する検討会においても、消費者への情報提供の方法の検討を行なっている。そこでも梅垣敬三先生からの科学的根拠に基づく情報提供の取り組みについての説明、消費者庁食品表示課作成の栄養情報担当者(NR)、食品保健指導士等のアドバイザースタッフに関する資料が提示されている。

これら二つの会合での結論としての具体的提言・方策等はまだまだでないが、民間ベースでの地道な養成努力は広く認知されたと考えられる。日本食品保健指導士会の皆様の継続した研鑽と普及努力の賜物と深く感謝する次第である。アドバイザースタッフに対しては、何らかの形で公的資格に近い処遇が望まれるところであり、行政の更なる支援が必要であろう。

なお、今年一月末に、食品保健指導士養成講習会での利用を強く意図した図書、「食品保健の科学」が丸善株式会社より出版された。監修は細谷憲政・林裕造・上野川修一の先生方。編集は(財)日本健康・栄養食品協会であり、まさしくアドバイザースタッフに望まれる一冊となっている。更なる食品保健指導士養成講習会の発展に大きく貢献するものと確信する。

最近の経済と 健康食品を取り巻く現状認識

日本食品保健指導士会 会長 関本 邦敏



平成二一年の年度末を迎え、会員の皆様におかれましてはご多忙なことと推察申し上げます。

現在の日本経済は、景気も底を打ち回復基調にあるとの見方がある一方、デフレ傾向にまだ歯止めがかかっていないとの見方もあります。

いずれに致しましてもまだ不透明な経済状況下にあることは間違いありません。世界同時不況から既に脱却した、豪州、中国、韓国などに比べ日本の回復はまだ先のようにです。米国のリーマンショック以降の世界同時不況に突入してからは、消費者の節約志向も重なり、健康食品業界全体としてはかなりの落ち込みを致しました。しかしながら通販売り上げは昨年夏以降上昇基調にあり、二〇〇九年一月時点での月間売上は一四〇億円と前年同期で約五%の伸びを示すに至りました。健康食品全体を見ましても下げ止まりが見られ、前年同期で約四%の伸びを示してきたとの報告もあります。まだまだリーマンショック前の水準に回復するには道半ばですが、明るさも見えてきています。

景気の落ち込みは、消費者の消費動向に反映しますが、高齢化社会での一番の関心事は

健康問題です。寝たきりにならないで天寿を全うしたいと願うのは全ての方の共通の思いではないでしょうか。良く言われます「ぴんぴんころり」が理想的でしょう。この言葉に見られますように健康で長生きをしたいという欲求がありますので、健康食品への関心は依然として高いものがあると言えるのではないのでしょうか。潜在需要を上手に掘り起こせばビジネスチャンスが広がる余地はあります。

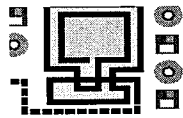
食品保健指導士の有資格者について調べた直近の調査（平成二二年二月末時点）で健康関連企業に所属している指導士が七二%を占めております。これらの皆さまは、会社の勝ち残りをかけて日々製造部門で、商品開発部門で、研究部門で、マーケティング部門で、品質管理部門で、営業部門で、お客様相談部門で、あるいはコンプライアンス推進部門で等々活躍されていることと思います。一昔前には、健康に良いと言うだけで売れた時期もありました。しかし消費者も教育されてきており、また行政の監視も厳しくなってきました。消費者にとつて良いものでないその商品は生き残れない時代になってきています。本来業界としても大変よいことですが、力のある大企業に寡占化されてしまう傾向が見えてきています。健康食品業界は、中小の製造業あるいは販売業を営む企業が多いので、生き残りは至難の技に近いものがあります。消費者に役立つ商品作りを真摯に迫及していくことしか生き残りの道はないと私は考えております。

特に昨年九月に発足しました消費者庁の

長官は社民党の党首です。そのためどうしても消費者庁に影響力を及ぼしているのが消費者団体であつて企業団体ではありません。健康行政のうちの安全対策を除き全てが厚労省から消費者庁に移管されました。そこで健康食品の商品開発には、消費者団体のオピニオンリーダーに参画して頂くことも有用な施策であると思います。現在の消費者団体のリーダーの方々には、企業は悪だと言うような色眼鏡で見えてはいません。情報開示を真摯に行うことで相互理解は得られます。売り手の論理ではなく買い手の論理で賢く知恵を出すことで、消費者の求める売れる商品を上市され、是非この不況の中での皆さまの会社が勝ち組になりますことを願っております。

私も一五年前から地方組織の消費者団体のトップの方々や生産者の方々そして中間にある販売者の方々を集めて相互理解を図るための勉強会を主宰しております。話せば理解が得られることは身を持って感じております。建設的な意見を言ってくれます。健康を求めているのはほかならぬ消費者ですから。

消費者庁にトクホも含めて健康食品は不要であると言わせないようにしなければなりません。ともかく、先ずは私たち食品保健指導士が元気で生き生きとした生活をしていないと説得力がないことだけは確かです。食事・運動・休養のバランスを考慮し、正しい生活習慣を自ら実践する覚悟がないと消費者を説得することは難しいでしょう。なかなかできないことですが、ともに頑張ろうではありませんか。自分自身のためでもありますから。



連載企画 数字でみる健康食品

健康食品に関連した行政報告・学術調査などの統計・データの読み解きコーナーです。鮮度のよい、面白い話題をピックアップしていきます。ご活用ください。

今回は、プレスリリースで「旬」をよむ

人気商材・キーワードを探る (平成21年9月～平成22年3月)

新製品のプレスリリースから、今、市場で旬の商材やコンセプトが浮かび上がってきます。この半年に市場に上市された新製品・新サービスをいくつかのキーワードで集計しました。

素材キーワード

ビタミン	103
乳酸菌	50
コラーゲン	46
ミネラル	40
グルコサミン	10
カテキン	9
ウコン	6
イソフラボン	0

コンセプトキーワード

カロリー	116
栄養	110
サプリメント	50
メタボ	23
特別用途食品	16
抗酸化	8

(NIKKEI NET 「プレスリリース」より)

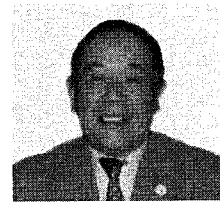
最近の新製品では、乳酸菌やコラーゲンが目立つほか、ビタミン、ミネラルは定番の強さが感じられます。特定保健診査の導入時に「メタボ」関連製品が市場に数多く登場したように、発売時の社会的な背景やブームによっても、新製品のキーワードは変わっていきます。

プレスリリースは市場動向や消費者ニーズのエッセンスをキャッチするのに役立つ情報源。

みなさんの専門領域に応じたキーワードで検索もできますので、ご参考になさってください。

甲斐ある資格たれ!

事務局長 杉浦上太郎



今三月三十一日付けにて、日本食品保健指導士会(以下指導士会と記す)の役職を退かせていただくことになりました。

思い起こせば、七年前の平成一五年四月一日に発足した指導士会ですが、早くも四期目(八年目)に入るところとなりました。

浅学非才の身でありながら、初代の会長職を四年間務めさせていただいた後、平成一九年四月に、まさに会長に相応しい関本会長にバトンタッチし、以来、新体制を支えるため事務局の立場となりました。そして三年経過。

指導士会発足時に立てた目標は、「食品保健指導士」という職能を社会に認知いただくことでした。この目標はまだ道遠しの感が否めませんが、近い将来に必ず果たせることでしょう。アドバイザリースタッフの資格取得の甲斐は、消費者のために本当に役立つことです。故に公的資格化の認知が必要なのです。

「健康食品」の近未来は、産・官・学・プラ・ス日健康協が一体となって新しい秩序を構築すること以外にないと確信しております。

我々のポジションは有利です。益々日健康協様と表裏一体の関係を強化して全方位に貢献する体制を構築しましょう。

今まで小職を支えてくださった皆様にご挨拶を申し上げます。筆をおくこととします。

《特集》
食品保健指導士の

職場を訪ねて⑪

株式会社 エロー・ピース
代表取締役社長

近藤 敬子 さん



・昭和二十三年愛知県岡崎市生れ
・昭和五〇年、常磐女学院卒業
・病院勤務（事務）、保険調査員、出産・育児を経て、健康食品・化粧品・肥料などの営業を始める
・平成一七年、食品保健指導士資格取得
・平成一八年、会社設立

昨年四月二六日に東海支部が発足しましたが、その誕生に尽力いただいた方のお一人が近藤敬子さんです。支部発足以来、近藤さんは副支部長として、柴田支部長を支え、積極的な支部活動に努力されています。今回は、東海支部の「お母さん」的存在の近藤さんに登場いただくことにしました。

去る三月一〇日、東京出張中の近藤さんを、(財)日本健康・栄養食品協会(以下日健栄協と記す)の一階展示ルームにお迎えし、関本会長より、お話を伺っていただきました。

知識は生かして、使つてこそ

知恵となる。勉強の目的はそこです。

(関) 本日は遠路おいでいただきありがとうございます。

(近) 丁度、東京に用事がありましたので、お気遣いはありません。むしろ私のようなものでよろしいのでしょうか。

(関) いえいえ、近藤さんは、お仕事や東海支部でのお世話役などさまざまな場面で活躍をされていますので、ぜひお話しを伺いたいと思つておりました。よろしくお願ひいたします。

(近) 分りました。何分よろしくお願ひいたします。

(関) まず、近藤さんが食品保健指導士(以下指導士と記す)の資格を取得しようとした動機は何でしょうか？

(近) 当時、私はある健康セミナーを聞いて以来、長年、健康食品に係わってきたところでしたが、元々栄養士とか薬剤師のような資格をもつていませんでしたので、一抹の不安をもつていました。そのような折にこの養成講習会を知りました。

(関) なるほど、それでこの講習会をどのよう感じましたか？

(近) 魅力的だと思ひました。

(関) そうですね、このカリキュラムはよくできていると思ひます。しかし、当時は二週間の講習期間でしたから、大変だったのではないですか？

(近) ええ、そうです。私は夫の生家で両親と同居しておりますので、長期間家を空けることは簡単ではありません。それに両親は農業を営んでおりますので、農閑期を選ぶということも大事なポイントでした。

(関) そうでしたか。地方の方は、この講習会を受講する場合、どうしても家族の協力が必要となりますね。

(近) はい、出てくるときは、義父・母に後のことをよくよく頼んできました。

(関) 分割受講の方法もありますが、それは検討されなかつたのですか？

(近) 検討しましたが、その方がかえつて慌しいので一挙に受講することにしました。

(関) 近藤さんは何期性ですか？

(近) 一四期生です(平成一六年)。

(関) そうですか。受講は順調でしたか？

(近) 与えられた教科書や資料を全部理解することは難しいので、ポイントだけはしっかりと覚えようと心掛けました。

(関) そうですね。短時間で全部理解するのは誰もが至難の技でしょう。何かの時に調べる方法を理解することが大事だと思ひます。

(近) はい、同感です。人前で話す機会が多いのですが、心掛けていることは、確信のものではないことは話さないように心掛けています。質問を受けたときも、確信がもてなければ、後日に回答を差し上げるようにしています。



日本食品保健指導士会

関本 邦敏 会長

(関) それは大事なことですな。

(近) 養成講習会を受講してよかったことは、調べる引き出しが沢山でできたことです。

(関) 近藤さんは、指導士として優等生だと思いますね。

(近) とんでもありません。

(関) いえいえ、指導士の有資格者は、企業の方が多いのですが、なかなかその資格を生かしている方は少ないのです。近藤さんは、有効に使っていらつしやると思います。

(近) ありがとうございます。私は長男が小さい頃、物を覚えるということとは、ただ覚えておくだけでは意味がない、それを生かして使うことで知恵になる。そうすることが勉強の本当の目的だ“とよく話しました。

肥料を作り、

古代米や野菜も作っています。

(関) 素晴らしい教育方針ですね。ところで、近藤さんご自身も農業をされていらつしやるのですか。

(近) はい、最近ですが、やっております。

(関) どういうものを作っておられるのですか？

(近) お米と家族が食べる程度の野菜類を作っています。

(関) お米は主食ですから大事ですね。

(近) そうですね、お米だけは長年食べていても飽きませんね。私の実家もいわゆる三ちゃん農家でしたので、私が小さい頃から祖母、父や母が田畑で働く姿を見て育ちました。あの当時は、両親とも防毒マスクをして農薬を撒いている姿が印象的でした。

(関) そうでしたね。私が小さい頃も同じですね。あちこちで農薬を沢山撒いていました。

(近) 当時の農家は、内容よりも収量を重視して、収入を増やそうと頑張っていました。

(関) そういう時代でしたね。ところで、近藤さんは今どのような考えで農作物を作っているのですか？

(近) 健康に悪い化学肥料を使わないで、元気なお米や野菜を作ることを中心にしています。

(関) なるほど、子供を育てるみたいに手間隙かけ愛情を注ぐのですね。

(近) そうです。そのためには、よい土作りに努力しています。

(関) よい土でないと、よい農作物は育ちませんね。

(近) やはりそのようにして作った農作物は違います。時々、お米や野菜を差し上げた方から、食べたら元気になったと聞くことがあります。とても嬉しくなります。

(関) 食べ物は正直ですね。どのようにしたらそのようなよい農作物ができるのですか？

(近) 肥料が大切です。私は肥料作りから工夫をしています。

(関) えっ！肥料まで作られるのですか？

(近) はい、その肥料は、今では私の会社の主力商品になっています。

(関) それはすごいことです。肥料の製造方法は、企業秘密でしょうね(笑)。差し障りのない範囲でお話しを…。

(近) 枝葉、木材チップ、野菜・果物の酵素、オカラなどを独自の方法で発酵させて、地力のある安全な肥料を作ります。

(関) 評判がいいのでしょうか？

(近) はい、堆肥と液肥があります。液肥は一〇〇〇倍以上に希釈して使用して頂きますが、家畜などの糞尿の臭いを消したり、土壌改良を促すため、土の活性を早めよい農作物ができるなどと皆様から喜ばれています。

(関) 大したものですね。

(近) 奈良の天神神社にも奉納し、同神社所有の神田でもご使用いただいています。

(近) 関本会長これをご覧下さい。(バッグからポリ袋入りの物を取り出す)。

(関) これは何ですか？

(近) 私が育てた古代米です。

『健康博覧会2010』

◎ ブース出展
 ◎ 健康食品市場
 新規参入セミナー主催
 成功裡に終了!

- ◆主 催 UBMメディア㈱
- ◆協 賛 (財)日本健康・栄養食品協会、
日本健康科学学会、他
- ◆協 力 日本食品保健指導士会
- ◆会 期 平成二二年三月一七日〜一九日
- ◆会 場 東京ビッグサイト
- ◆来場者 四万五、五三〇人

年中行事として定着している「健康博覧会」は、業界イベントとしては国内最大です。

昨年に引き続き、今年もUBMメディア㈱(社長:牧野順一氏)の好意により、日本食品保健指導士会(以下指導士会と記す)との、タイアップ企画の申し入れがありました。

その内容は、指導士会は、一昨年及び昨年と同様、健康食品業界に新規参入を志向する企業に対して特別セミナーを開催すること、またUBMメディア㈱は、指導士会に展示ブースを無償提供するというものです。

第四回幹事会(平成二二年一月七日)において、セミナーの講師、活動スタッフ等につき検討をいたしました。今回は、従来提供を受けたUBMメディア㈱からの助成金が、今回は中止となったため、各講座ごとに千円の資料

代を徴収することに決めました。

受講の予約制としたため、予約対応先は杉浦事務局長の電子メールアドレスとしました。指導士会のブースの場所は、日本健康・栄養食品協会(以下日健栄協と記す)のブースと一コマ挟んだ所で、セミナー会場にも至近の絶好の場所でした。

《健康博覧会2010実行スタッフ》

- ・総 責任者 会長/関本邦敏
- ・実行責任者 事務局長/杉浦上太郎
- ・会計責任者 幹事/佐藤衣代
- ・セミナー講師 菅野敏博、林真知子、
尾川利恵子、永島正
- ・説明 要員 尾川利恵子、佐藤衣代、
松山理恵子、岡村澄子、
渡邊笑淳、継田治夫、
志賀美知子
- ・ビデオ撮影 吉池修
- ・協 力 横田和子
(以上二四名/敬称略)

《展示物の概要》

- || 指導士会のPR用パネル ||
- ① 指導士会表示(マーク入り)
- ② 指導士とは(誕生の経緯、資格法等)
- ③ 指導士の概要(性・年代・エリア別等)
- ④ 指導士の活動状況(講演・研修会等)
- || 日健栄協・JHFAのPR用パネル ||
- ① 日健栄協の概要
- ② JHFA表示制度の概要
- ③ 指導士の説明

《健康食品市場 新規参入セミナー概要》

|| 三月一七日(水)

一〇時三〇分〜一三時四〇分 ||

- 一. 「①原料編」 菅野敏博指導士
- 二. 「②加工編」 林真知子指導士
- 三. 「③販売編」 尾川利恵子指導士
- 四. 「④表示編」 永島正指導士

セミナーは、従来より一段とグレードアップしたビジネスセミナー用のオープンステージ(一二〇席)で行われました。

今年、受講者の便宜を図って、一〇時三〇分から、四講座を連続して行うことになりました。講座間の休憩時間は一〇分間です。

受付は、松山幹事と佐藤幹事。予約者と当日申込み者が重なり、少々パニック状態となりましたが、二人の英知と場内整理係の渡邊指導士の活躍で無事乗りきりました。

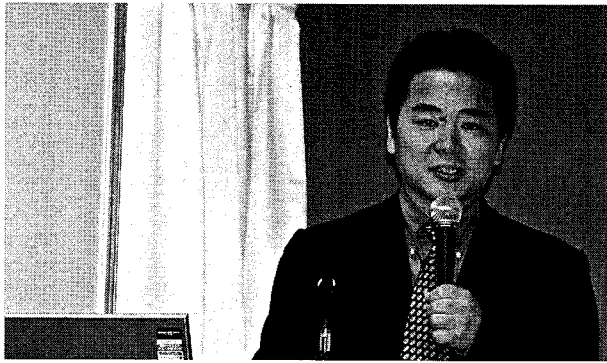
菅野・林・永島講師は、連続三回目ということで余裕綽々の感。初体験となる尾川指導士は事前準備に相当の時間をかけ、充実した内容の講演をしてくださいました。

受講者数は、延べ二二四名(重複聴講者有り)。各講座別受講者数は左記のとおりでした。

- ①原料編/三九名、②加工編/四三名
- ③販売編/七八名、④表示編/六四名

ブースには、多くの指導士やJHFA会員企業、一般企業関係者等多くの来訪を得(推定二千名)、盛況でした。

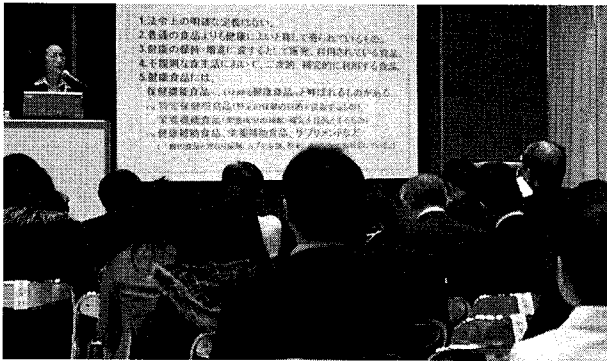
今回も、本活動に際し、UBMメディア㈱、日健栄協及び当会会員の絶大なる協力をいただきました。関係各位に感謝申し上げます。



▲菅野敏博講師



▲林真知子講師



▼尾川利恵子講師



▼永島正講師



▲謝辞を述べる関本会長



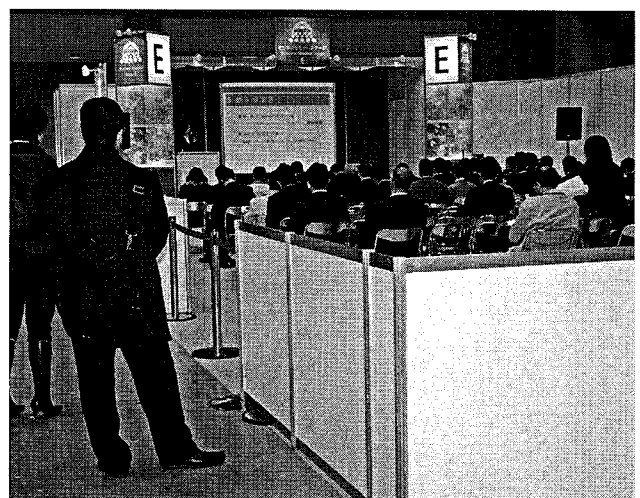
▲受付／左から松山幹事、佐藤幹事



▲ビデオ撮影の吉池千葉支部長



▲指導士会展示ブースに集った指導士のみなさん



▲セミナー会場風景

日本食品保健指導士会
◇ 支部活動レポート ◇

東京支部 支部長 田中 吉春

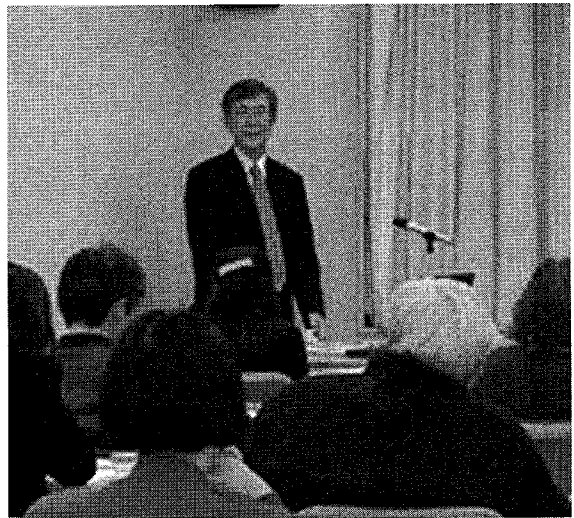
「第四回東京支部」研修会

- 一. 日 時:平成二二年二月一日
- 二. 場 所:(財)日本健康・栄養食品協会
三階会議室
- 三. テーマ:「特別用途食品制度の概要と
試食会」
- 四. 出 席:三六名
- 五. レポート(左記)

私たち食品保健指導士にとっても「特別用途食品」はいわゆる健康補助食品や特定保健用食品に比べてなじみが薄く、ましてその食品を試食する機会は非常にな少ないのが現状です。そこで、今回の勉強会はどちらかというところ、馴染みの薄い「特別用途食品」にフォーカスしてみようということで企画しました。

「特別用途食品」制度については、厚生労働省を中心に検討がなされ、昨年四月から新たな制度に変更されました。そこで今回の勉強会では、第一部として日健栄協の栄養食品部の橋川俊明部長に「特別用途食品制度の概要」と題してご講演をいただき、新しい制度の概要をご説明いただきました。

第二部では、初めての試みとして特別用途食品を製造販売し日健栄協の栄養食品部会に属されている株式会社大塚製薬工場様、キッ



講演される橋川部長

セイ薬品工業株式会社様、ホリカフーズ株式会社様のご協力を得て、製品の試食も行いました。

まず大塚製薬工場メディアカルフーズ事業部の戎五郎課長より、経口補水液「OS-1」の製品概要のご説明をいただき、各自に配られた製品の試飲を行いました。次いで、キッセイ薬品工業(株)ヘルスケア事業部カスタマーサービスセンターの宮沢茂樹チーフから腎疾患患者用食品(低たんぱく質食品)の「ゆめごはん」、「げんたうどん」、「げんたそば」について、製品のご説明と試食を行いました。

また、ホリカフーズ株式会社の方は、ご都合でご参加いただけませんでしたが、同じく腎疾患患者用食品(低たんぱく質食品)の「ピエールシーごはん」をご提供いただき同時に試食をしました。



試食をする参加者

今回の制度変更によって、糖尿病食調整用組合わせ食品等が特別用途食品から外され、従来に比べるとバリエーションは少なくなりましたが、試食した製品はどれもおいしく、患者さんたちのQOLは保たれているものと実感しました。

最後に、試食にあたり調理や配布にご協力いただいた、キッセイ薬品工業(株)カスタマーサービスセンターの渡邊美穂様ならびに東京支部役員の皆様に感謝申し上げます。

日本食品保健指導士会活動状況

「農場から食卓までフォーラム21」

メンバーの研修実施

Ⅱ 日健栄協と指導士会の協力にてⅡ

- 一. 日 時：平成二二年三月二六日
 - 二. 場 所：(財)日本健康・栄養食品協会(以下日健栄協と記す) 三階会議室
 - 三. 挨拶：日康栄協 事務局長 藤嶋英二郎
 - 四. 講演：「健康食品の現状と近未来」
日本食品保健指導士会
事務局長 杉浦上太郎
 - 五. 見学：二階展示ルームにて
 - 六. 参加者：二〇名
- * 司会／日本食品保健指導士会 関本会長

平成二一年度指導士会の重点活動方針の一つに、公益活動があげられています。今回は、その一環として、関本会長が、一八年前にわたって主宰されている「農場から食卓までフォーラム」のメンバーを対象に研修会を実施しました。

同フォーラムは、畜産や養鶏等の生産者から消費者団体の幹部、企業の研究所員などで構成されたユニークな組織です。

藤嶋事務局長より、歓迎の言葉と日健栄協の概要説明がなされました。その後、杉浦事務局長より、具体的なケーススタディなどを

織り込んで、健康食品の現状と近未来の動向につき講演を行いました。質疑応答は、専門家集団らしく核心をついた鋭い質問が相次ぎました。特別参加された尾川利恵子指導士にも回答陣に加わっていただき対応しました。

講演する杉浦事務局長



一息入れた後一階展示ルームにおける見学タイムに移行。当日当番の志賀美知子指導士、特別参加の岡村澄子指導士、尾川利恵子指導士、松山理恵子幹事も説明要員となつて対応していただきました。あたかも、日

展示ルームで見学する参加者



健康協のビル全体がヒートアップしたかのような盛り上がりにて、無事終了となりました。協力いただいた関係各位に感謝いたします。

幹事会活動状況

● 平成二一年度第四回幹事会

- ▽ 平成二二年一月七日(木)
 - ▽ 於：(財)日本健康・栄養食品協会1F
 - ▽ 出席幹事／関本会長、池田副会長、能美・阿部・松山・岸本・佐藤幹事、杉浦事務局長、岡村監事(九名)
 - ▽ オブザーバー／日健栄協 教育研修部 岩浪課長(一名)
- 議題／①秋期研修会総括の件、②来期の活動方針の件、③経理状況の件、④健康博覧会対応の件、⑤支部活動の件、⑥更新制並びにスキルアップのためのビデオレンタル対応委員会の立ち上げの件、⑦他のアドバイザースタッフとの交流促進の件、⑧幹事会のあり方の件、⑨その他の件

食品保健指導士の教科書 「食品保健の科学」



指導士特価

4月末日まで!

丸善(株)出版事業部 発行

定価 ¥6,195 (税込)

指導士特価 ¥5,576 (税・送料込)

問い合わせ／教育研修部

「東海支部」平成22年度総会のご案内

平成22年3月20日
日本食品保健指導士会
東海支部長 柴田勝

平素は東海支部の活動にご支援頂き厚く御礼申し上げます。当支部も産声をあげて1年を経過しましたが、まだまだ至らぬところがあるので、役員一同頑張る所存です。さて、年間行事のはじめとして、下記の要領で「総会」を開きたいので、ご参加のほど宜しくお願い致します。尚、今年は、特別講演として、(株)太陽化学の朱先生に「食品の機能性」に関する話しをお願いしてあります。

《総会次第》

- 日時 平成22年4月17日(土)、14時～17時(受付は13時30分より)
■場所 ウイングあいち(名古屋駅前、愛知県産業労働センター11F 1109号室
住所;名古屋市中村区名駅4-4-38 電話;052-571-6131

<司会> 服部副支部長

- | | |
|---|----------------------|
| 1) 「支部長挨拶」柴田勝 | 14:00～14:05 |
| 2) 「会長挨拶」関本邦敏 | 14:05～14:10 |
| 3) 「行事及び決算の審議と承認」
・21年度実行行事及び決算の承認
・22年度予定行事及び予算案の承認 | 14:10～14:40 |
| 4) 「記念講演」(質疑応答含む)
演者:関本会長
演題「リスクコミュニケーションの理論と実際」 | 14:40～15:10 |
| 5) 休憩 | 15:10～15:20 |
| 6) 「特別講演」(質疑応答含む)
演者:朱政治先生
(株)太陽化学研究所、シニアアドバイザー、農学博士
演題「食品の機能性評価と安全」 | 15:20～16:20 |
| 7) 「会員の自己紹介」 | 16:20～16:45 |
| 8) 「閉会の辞」副支部長 近藤敬子
懇親会の説明含む。
*会場:名古屋駅周辺 | 16:50
17:30～19:30 |

<出欠の連絡>

千種ゆう子事務局長まで連絡ください

E-mail: kenkounotane@yahoo.co.jp Tel 090-3304-9952

締め切り日:4月15日

「平成22年度日本食品保健指導士会通常総会」開催のご案内

- ◆開催日時:平成22年5月29日(土)、午後2時から
- ◆会場:日本健康・栄養食品協会 3F会議室
- ◆議題:①平成21年度活動報告及び決算報告、監査報告
②平成22年度活動計画案・予算案
③その他報告・承認事項
- ◆記念講演:現在検討中

*詳細は後日送付の「通常総会案内」及び「議案書」を参照ください。